

用語解説

NDC (Nationally Determined Contribution)

各国が個別に定める「**温室効果ガス削減目標**」のこと。例えば、**日本**は、世界全体での1.5℃目標と統合的で、2050年ネット・ゼロの実現に向けた直線的な経路にある野心的な目標として、**2035年度、2040年度**において、温室効果ガスを**2013年度からそれぞれ60%、73%削減**することを目指すことにし、これを新しいNDCとして、2025年2月、国連に提出。

CBAM (Carbon Border Adjustment Mechanism)

EUにおける「**炭素国境調整措置**」のこと。EU排出量取引制度(EU ETS)に基づいてEU域内で生産される対象製品に課される炭素価格に対応した価格を、**域外から輸入される対象製品に課す制度**。

グローバルストックテイク (Global Stocktake : GST)

パリ協定に基づいて**5年毎に実施される評価プロセス**で、各国が温室効果ガス排出削減目標の達成状況を確認し、**地球規模での進捗を総合的に把握**するもの。



新資金目標 (New Collective Quantified Goal : NCOQ)

先進国が途上国に対して提供する気候変動に関する資金の2025年以降における金額目標のこと。

グローバル適用目標 (Global Goal on Adaptation : GGA)

適応能力の向上、気候変動に対する強靱性の強化と脆弱性の低減を目指す定性的目標のこと。具体的な進捗を測るための測定可能な指標の確立が課題となっていたところ、COP30において59の指標に合意

NAP (National Adaptation Plan)

「国別適応計画」のこと。「適応」とは、気候変動に伴うリスクを軽減するための対策(既に起きている気候変動の影響を防止・軽減する備えや、新しい気候条件を利用するための対策)のことであり、**NAP**は、主に開発途上国が気候変動に対する**中長期的なニーズ**を明確にするとともに、自国の**脆弱性を評価し、適応戦略を策定・実施**するための枠組み。

